

# リサイクル燃料備蓄センター建設に係る 環境保全への取り組み状況について



平成 22 年 3 月

# 環境保全への取り組み

当社は、平成 20 年 3 月より、「リサイクル燃料備蓄センター」の準備工事を進めており、現在のところ、順調に進捗しております。

工事の実施に際し、自主的に環境影響評価を実施することとし、環境調査計画立案の段階から専門家や行政機関の助言を頂き、環境影響評価及び保全策等を報告書に取りまとめております。(平成 20 年 3 月取りまとめ)

今回、平成 21 年度の「環境監視」結果について報告するとともに、併せて実施した環境保全への取り組みについてご報告させていただきます。

## 「環境監視」結果

### 1. 概要

表1に示すとおり、水質・陸生生物・生態系について工事中の環境監視を実施しました。

表1 環境監視項目

区 分	工事中	供用開始後
水質	○	—
陸生生物	○	○
生態系	○	○

注)「リサイクル燃料備蓄センター建設に係る環境影響評価報告書(概要)について 平成 20 年3月」より抜粋

その結果、土砂の流出による河川の水質の変化は確認されませんでした。

また、工事エリア周辺を踏査したところ、動物の生息基盤となる植生の変化も確認されませんでした。

以上のことから、周辺環境への影響はほとんどないものと推察されました。

なお、道路交通騒音・道路交通振動は、昨年度の環境監視結果では、工事からの影響が認められませんでした。今年度は、昨年度に比べ工事中の道路交通量が少なく、次のピークは平成 22 年度以降になる計画です。したがって、今年度は環境監視を実施せず、平成 22 年度に行うこととしています。

## 2. 項目別の結果

### (1) 水質

工事中の排水を放流している河川における浮遊物質量は、工事エリアの上流側、下流側ともに、雨が降ると一時的に高濃度となりますが、通常は10mg/l以下で推移しており、排水による影響はほとんどないことが確認されました。

### (2) 陸生生物

#### 1) 動物

重要な昆虫類であるオオカワトンボ、キマダラモドキ、ヒョウモンチョウ等の生息が、調査時と同様に確認されました。さらに、重要な昆虫類であるオオルリハムシや重要な鳥類であるミサゴも確認されました。

また、植生変化や、美付川の水辺環境にもほとんど変化がないことから、生息環境に変化はないものと推察されました。

このように、準備工事エリア周辺で保全対象種の生息状況やその生息環境が良好に保たれていることは、今後、環境保全措置の一環としてビオトープづくりを進めていくためにも、重要なことと考えております。



周辺地域で確認された重要な昆虫類

上：オオルリハムシ

下：ヒョウモンチョウ

#### 2) 植物

事前の調査で、工事エリア内に生育が確認されたノダイオウ、ミチノクサイシン、ノウルシ、オオニガナ、エビネの5種の重要な植物については、工事実施に先立ち、平成19年秋に生育適地へ移植し、2年が経過しましたが、生育状況は概ね良好でした。



ミチノクサイシン



ノダイオウ

### (3)生態系

周辺を踏査したところ、動物の生息基盤となる植生の変化がなかったことから、生態系への影響はほとんどないものと推察されました。

## その他の環境保全への取り組み

### 1. ミズナラ林の復元

現地において平成 18 年秋にミズナラなどの種子を工事着手前に採取し、林の復元に向けて、苗木を育てています。現在3シーズン経過したところで、大きいもので既に1mを越えるまでに成長しています。もうすぐ現地でこの苗木の植栽がはじまります。



圃場で育苗中のミズナラ苗等（3年目の状況）

### 2. 現地の種子を使った法面の緑化

平成 20 年秋に現地において、法面の緑化に使う、植生マット用の草本類の種子を 15 種類約 500 万粒を採取しました。平成 21 年春にこの種子が入ったマットを切土法面に敷設しました。施工から数ヶ月でアカバナ、キンエノコロ、コブナグサが発芽・生育しました。



植生ネットの種子から発芽・生育が確認

### 3. ビオトープの整備

ビオトープ整備に向けて、現地の水みちを活かした小さな池をつくってから1年が経ちました。

整備されたビオトープエリアではこの間に、重要な昆虫類(ハグロトンボ、ショウジョウトンボ、ハラビロトンボ、ミヤマアカネ、オオルリハムシ、ヒョウモンチョウ、ゴマシジミなど)11種類や、カモシカなども確認されました。また、重要な植物であるイトモやイチョウウキゴケも造成池で生育が認められました。

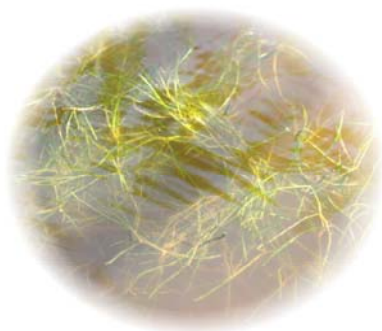
より多くの動物類にとって、より好適な環境となるように、ヨシの選択刈りや、チョウ類の吸蜜植物になるような植物を少しずつ増やすなど、順応的な整備を進めはじめました。



ビオトープの状況



ヨシの選択刈り



イトモ



ヒメアカタテハ



ミヤマアカネ



イチョウウキゴケ